

「総合的な学習・探究の時間」の指導にいかすための評価について考えてみませんか

経過

昨年度までに、探究の質を高めるための学習評価について、調査研究を進めてきました。その中で、学習評価の信頼性や妥当性を確保するためにグループで協議しながら、判断基準を表にする研修を紹介しました。

研修の詳細内容については、令和3年度調査研究報告Aをご覧ください。



目的

本年度はさらに、研修講座の受講者を対象に、同一の評価資料について協議したのち、実際に判断基準を表にもらうことで、指導にいかすための評価のあり方を明らかにすることとしました。

複数の評価者で児童生徒の学びを評価し、協議する

①決めだした観点に基づいて、児童生徒の資料(レポートや作品、論述、映像)などをもとにして評価する。

②各資料を5~1点で採点する。

まとめ方について採点した例です

A	B	C	D	E
1	評価資料	評価者氏名	採点	特徴や採点理由
2	太郎さんの資料	評価者①	2	次への課題やつなげていきたいこと等まで触られていない。発展性がなさそう。
3		評価者②	3	よく調べていると思うが、まとめが2段階になってしまっている。
4		評価者③	3	自分の調べてきたことを、わかりやすく説明している。
5	花子さんの資料	評価者①	5	テーマとまとめが一貫している。次への思いや願いも含まれている。
6		評価者②	4	課題とまとめがはっきりしており、今後、自分がやりたいことまで言及している。
7		評価者③	4	内容もわかりやすく、自分の考えもまとまっている。

採点表



③資料の特徴や採点理由について意見交換し、評価者の価値観や判断基準をグループで共有する。

※ 共同編集アプリを用いて、意見交換すると効率的です。



同一の資料について協議することで、教師の評価観が養われ、評価の信頼性や妥当性が高まります。

- ・先生方と資料をもとに議論することで、総合的な学習の時間の進め方や評価のあり方について見通しがもてた。
- ・職員間で共通認識をもったり、各自の考え方を交換したりする機会となり、評価の信頼性や妥当性を高めることに +α の効果があると感じた。短時間でできる上に、効果の高い研修だと思った。(受講者の声)

判断基準の構成要素を抽出し、表にして協議する

①決めだした観点について協議し、判断基準の構成要素となるキーワードを2つ抽出し、軽重をつける。



②抽出したキーワードを右のような表に当てはめて判断基準の表を作成する。

③作成した判断基準の表をもとにしながら、児童生徒に対する指導や手立てについて検討する。



	評価 AA	評価 A	評価 B	評価 C
例	キーワードX と	キーワードX は含むが	キーワードY は含むが	キーワードX と
	キーワードY のどちらも含む	キーワードY は含まない	キーワードX は含まない	キーワードY のどちらも含まない
	課題への向き合い方 と	課題への向き合い方 は含むが	地域とのつながり は含むが	課題への向き合い方 は含むが
グループ I	地域とのつながり のどちらも含む	地域とのつながり は含むが	課題への向き合い方 は含むが	課題への向き合い方 は含むが
	テーマに対する一貫性 と	テーマに対する一貫性 は含むが	確かな根拠 は含むが	確かな根拠 は含むが
グループ II	確かな根拠 のどちらも含む	確かな根拠 は含むが	テーマに対する一貫性 は含むが	テーマに対する一貫性 は含むが



※ 判断基準の表の作成は、この他にも様々な方法があります。

判断基準を表にして協議すると、目指す児童生徒の姿や育成したい資質・能力が明確になります。また、協議を通して教師自身の指導や支援が適切かどうか省察することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実やチーム学校づくりに寄与することも期待できます。

- ・評価にこれほどの差異があることを実感できる研修だった。各々の視点や価値観、信念は様々であり、一人の教師だけで子どもの学びを全て捉えることが無理であることを肝に銘じて指導や支援を進めることの大切さを感じた。
- ・感覚的な評価でなく、話し合い判断基準を表にしていこうとすることで、学校として育てたい力が明確になると思った。
- ・総合的な学習の時間の単元を通して、子どもたちとどのような学びを進めるのか考えるためにも、事前に判断基準を表にしてみても、頭の中を整理した状態で授業に向かいたい。(受講者の声)

成果

課題

「総合的な学習・探究の時間」の評価について具体的に議論し合い、共有することを通して、先生方が取り組んでいる題材や活動を多面的に見直したり、児童生徒の頑張りを見るポイントを養ったりすることにつながるが見えてきました。さらに、各校で目指す児童生徒の姿が明らかになり、指導の改善に生かせそうです。今後は、研修講座や教職員研修会サポートでの活用が進むよう、改善していく予定です。